

令和6年度 第2四半期（7月～9月）

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 1.1 ポイント改善、
令和5年度第2四半期からは 0.9 ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲3.3（前期比+1.1、前年同期比+0.9）、来期見通し（10月～12月）については+0.7（当期比+4.0）となった。

卸売業・サービス業以外の業種で DI 値が前期比プラスとなった。建設業・運輸業を中心に需要が増加傾向だとの声があがる一方、採用難、原材料やエネルギー価格の高騰を懸念材料として挙げる声が依然多い。自動車メーカーの不正問題、働き方改革に加え、異常気象の影響を指摘する声も聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が 40.0（前期比+3.1、前年同期比+1.8）、来期に設備投資を「計画している」との回答は 38.6（当期比▲1.4）となった。

■製造業

業況 DI 値は▲3.0（前期比+8.0、前年同期比▲7.2）、来期の見通しについては±0.0（当期比+3.0）となった。

半導体関連の回復が遅れているものの、工作機械やモバイル関連を中心に好調であるとの声があった。一方で、印刷業ではペーパレス化による需要の減少、食品製造業では人手不足や採用難、原材料価格の高騰、異常気象による原材料不足を問題視する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「人件費の増加」、「需要の停滞」が主に挙げられる。

■建設業

業況 DI 値は+7.7（前期比+0.3、前年同期比+24.4）、来期の見通しについては+15.4（当期比+7.7）となった。

業況は横ばいとの回答が多い中、公共工事・民間需要ともに動きが出てきた、原価削減への取組みが奏功した等の明るい声が聞かれた。一方で、仕事はあっても労働力不足で受けられない、高齢化により熟練作業員の確保が難しい、働き方改革や記録的な猛暑の影響で生産性が落ちているとの声もあった。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「材料単価の上昇」、「熟練技術者の確保難」が主に挙げられる。

調査概要

●調査対象

- (1)対象地区：豊橋市内 330 社
- (2)回答企業数：176 社 (53.3%)

●調査期間

令和6年7月～9月

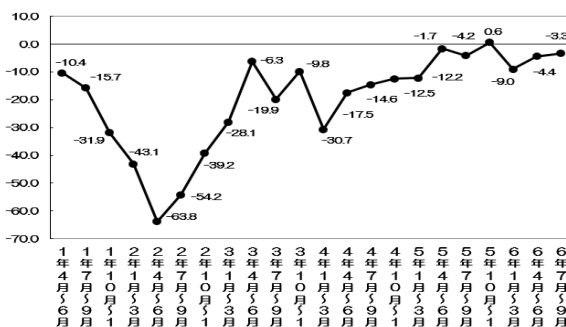
●調査方法

往復はがき、FAX、Google Form

●回答企業の内訳

製造業 68・建設業 29・卸売業 20
小売業 23・運輸業 11・サービス業 25

全業種



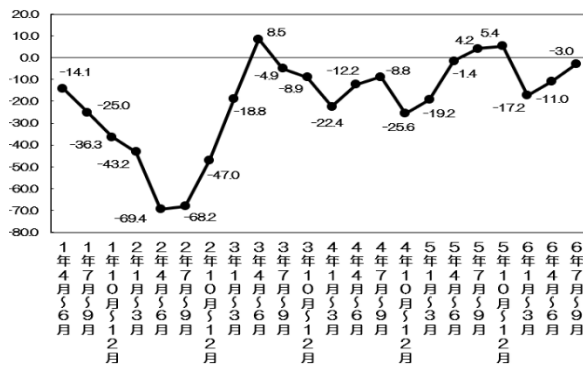
《A》前年同期（令和5年7月～9月）と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI値	↑
21.9%	53.0%	25.2%	▲3.3%	

《B》来期（令和6年10月～12月）の景況見通し

良い	同様	悪い	DI値	↑
20.9%	58.8%	20.3%	0.7%	

製造業



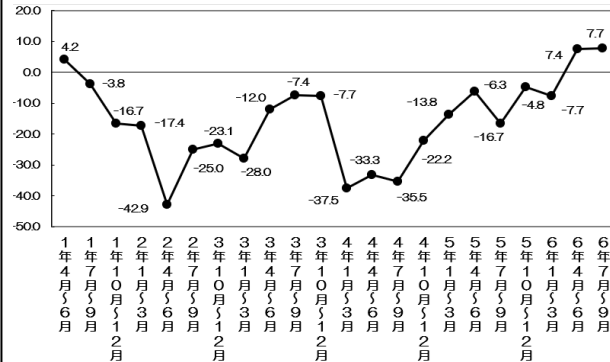
【前年同期比】 令和5年7～9月

自社の業況 ▲3.0 ↓

【来期見通し】 令和6年10～12月

自社の業況 0.0 ↑

建設業



【前年同期比】 令和5年7～9月

自社の業況 7.7 ↑

【来期見通し】 令和6年10～12月

自社の業況 15.4 ↑

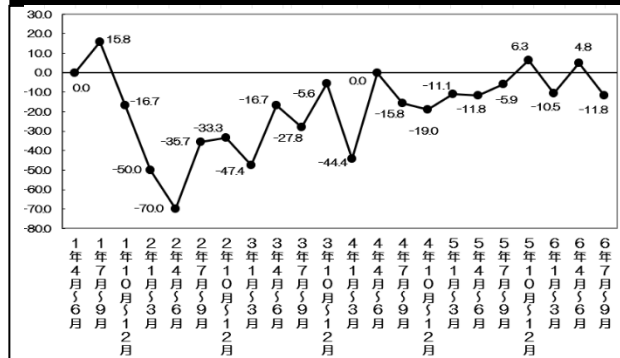
■卸売業

業況 DI 値は▲11.8（前期比▲16.6、前年同期比▲5.9）、来期の見通しについては+6.3（当期比+18.1）となった。

食品ギフトや建材（非住宅関連）卸では、価格転嫁できている、需要は堅調であるとの声も一部聞かれたが、全般的には原材料価格や運賃の高騰、円安や人件費・金利上昇、異常気象等を懸念材料として挙げる声があった。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「仕入価格の上昇」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

卸売業



【前年同期比】 令和5年7～9月
自社の業況 ▲11.8 ↓

【来期見通し】 令和6年10～12月
自社の業況 6.3 ↑

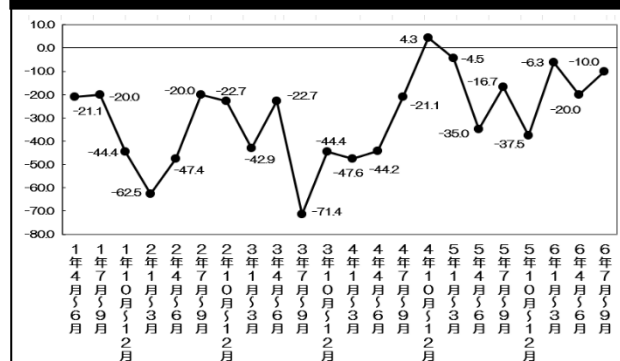
■小売業

業況 DI 値は▲10.0（前期比+10.0、前年同期比+6.7）、来期の見通しについては▲25.0（当期比▲15.0）となった。

全体として業況は横ばいであり、仕入価格やエネルギー価格の上昇、人手不足を懸念材料として挙げる声が多かった。また、異常気象により一部商品の仕入が困難であった、猛暑により客足が鈍ったのではないかと指摘する声も聞かれた。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「仕入価格の上昇」、「需要の停滞」が主に挙げられる。

小売業



【前年同期比】 令和5年7～9月
自社の業況 ▲10.0 ↑

【来期見通し】 令和6年10～12月
自社の業況 ▲25.0 ↓

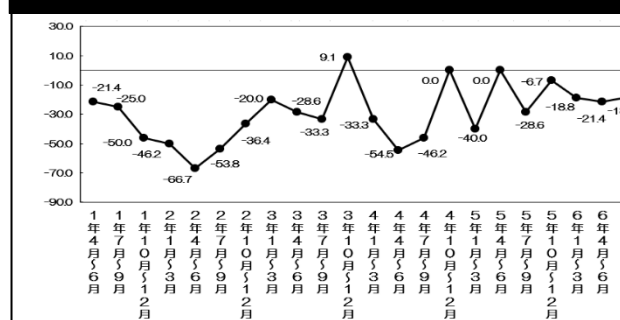
■運輸業

業況 DI 値は▲18.2（前期比+3.2、前年同期比+10.4）、来期の見通しについては▲9.1（当期比+9.1）となった。

運賃価格交渉の効果が出始めている、全体的に荷物の動きが出てきた等、明るい声が聞かれた。一方で、車両の修繕費や燃料価格、人件費等の上昇が続いていて採算は横ばいである、自社の求める人材をなかなか採用できない等の意見もあった。

経営上の問題点としては「人件費以外の経費の増加」、「運送単価の低下・上昇難」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

運輸業



【前年同期比】 令和5年7～9月
自社の業況 ▲18.2 ↑

【来期見通し】 令和6年10～12月
自社の業況 ▲9.1 ↑

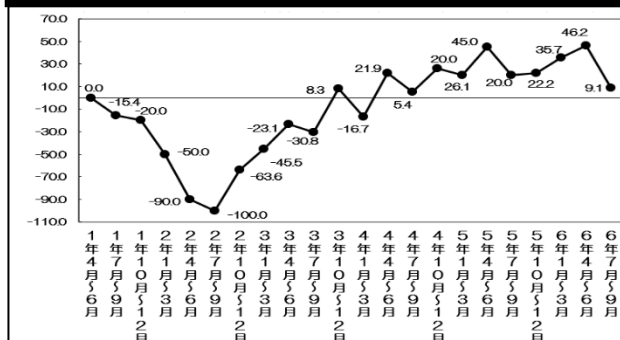
■サービス業

業況 DI 値は+9.1（前期比▲37.1、前年同期比▲10.9）、来期の見通しについては+20.0（当期比+10.9）となった。

イベント関連は好調であるとの声があったものの、全般的に業況としては横ばいであるとの声が多く聞かれた。仕入価格や人件費の上昇を懸念材料として挙げる声が多く聞かれたほか、警備業を中心に採用難が深刻だとのことであった。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「従業員の確保難」、「仕入価格の上昇」が主に挙げられる。

サービス業



【前年同期比】 令和5年7～9月
自社の業況 9.1 ↓

【来期見通し】 令和6年10～12月
自社の業況 20.0 ↑